

## ◇ロジ研壮年部長随想リレー

江戸川支部壮年部長 松下 章一〔有松運送〕

私が運送会社をやっているのは、親父の跡を継いだのも事実ですが、仕事そのものが好きっていうのが一番の理由かなあって気がします。仕事といっても運送会社を経営するっていうのは、まったく興味もないし、その力もありません。私の場合は、トラックを運転して荷物を運ぶことが好きなんです。トラックのメカニックも大好きだし、運転することも大好きです。修理屋工場で修理をしているのを見ていると時間の経つのを忘れま

す。いろいろな理由をつけてトラックに乗るようにしています。荷物を届けた時に「ありがとう」って言ってもらるのが大好きです。長距離を走るのも大好きです。が、会社が大きくなると社長はトラックに乗らなくなるものらしいです。トラックが好きで運転したくて荷物を運びたくて運送屋になったのに、なんでトラックに乗らなくなるんでしょう？この辺がうちの会社が発展しない原因の一つのような気がします。でもこれもありでしょう？

## ◇ロジ研壮年部長随想リレー

多摩支部壮年部長 飯沢 宗光〔株成光運輸〕

### 「意識」

「意識」を国語辞典で調べると「自分が今何をしているか、どういう状況に置かれているのかが、自分ではっきり分かる心の状態」。広辞苑では「①認識し、思考する心の働き。感覚的知覚に対して、純粋に内面的な精神活動。②今、していることが自分で分かっている状態。われわれの知識・感情・意志のあらゆる働きを含み、それらの根底にあるもの。」と説明しています。

「意識」という言葉の意味は、私達は言うまでもなくそれなりに理解しているはずなのですが、私にとっては普段の行動を後で振り返った時に、いかに無意識で行動していたかという事を思い知らされる時が多々あります。皆さんは如何でしょうか？

日常生活の中では、習慣化された行動や癖はおそらく「意識」してではなく、無意識で行われているものだと思います。

最近社内では、環境問題について勉強することがあり、この「意識」の二文字が、非常に重要な言葉であると考えさせられました。例えば、郵便物やメモ用紙・包装紙・割り箸の袋などはごみとして無意識（習慣や癖）に捨ててしまったり、家庭でも菓袋や小さな値札（紙製）も同じように捨てていました。しかし、環境問題を考えるのであれば当然リサイクルを「意識」しなければならないし、「意識」した行動をとらなければ何も変わらないことを痛感いたしました。環境問題だけでなく社員教育をする上でも、この「意識」を持たせた仕事をいかにさせるかが、今後の会社の存続や発展に繋がるものではないかと考えております。

### 《百文字のひろば》

杉並支部 壮年部長 井口 益壽〔井草運送(株)〕

全ての国民は法の下に平等！でも我々業界に対するNOX・PM法、ディーゼル車規制は平等ですか？一方、競争入札に対しては地域の壁は有りません。ディーゼルエンジンが見直されている今でも、あの時のペットボトルは『地域限定』につき高値のまま！

荒川支部 壮年部長 川村 寧次〔川村運送(株)〕

### 「くらしを運ぶ」

日々、安全運転を心がけ無事故・無違反を貫いているドライバーの方々には、本当に頭の下がる思いです。その誠意に報いる為にも我々トラック業者は、安易な運賃ダンピングに応じる事は避けなければならない。かつて認可運賃があった時代は、一通りのルールがあった様に思います。頑張っているドライバーの生活を脅かす事のない様子が「くらしを運ぶ」原点ではないでしょうか。

## ◇お知らせ 《行事予定》

- 11/ 5(水) 17:00～ 正副本部長会議
- 11/21(金) 18:00～ 第3回オープンセミナー※近日ご案内します。
- 12/ 3(水) 16:00～ 正副本部長会議
- 17:00～ 臨時総会 18:00～ 忘年会

## ◇第15回ロジ研 温故創新「青淵 渋沢 栄一 翁」を訪ねて

企画副委員長 飯島 光幸〔新宿支部(有)トーワ・デリバリー〕

- 1. 期日 平成20年10月17～18日(金・土) 晴天
- 1. 参加 18名 貸切りバスにて
- 1. 行程 17日 午後1時出発 四谷「東ト協会館」→王子飛鳥山公園内「渋沢資料館・青淵文庫・晩香廬」総称「暖依村荘」という→伊香保温泉「ホテル天坊」泊
- 18日 深谷市「誠之堂・清風亭」・昼食「割烹 楓」・「渋沢栄一記念館」・「栄一翁 生家・通称 中の家」



(「中の家」(栄一の生家)の母屋)

【功績】日本経済の父、翁は1840年(天保11)2月13日、現在の深谷市血洗島の豊農の家に生まれる。階級制度に疑問を持ち討幕運動に拘わるも、一橋慶喜に仕官する。

翁の転機となった欧州視察へ随行し「人間平等主義」「進んだ文明・経済」に感銘を受け、明治元年帰国後、新政府「大蔵省」へ仕えるも、大久保利通らと財政運営で意見が合わず辞職、一般社会で実業界の最高指導者として活躍した。

「論語」の精神を重んじ「道德経済合一説」を唱え、各種産業の育成と多くの近代企業育成と確立に努め、設立に関わった企業は、500余に及ぶ。

### 主な設立団体

- 第一国立銀行(現みずほ銀行)・帝国ホテル・東京証券取引所・東京瓦斯・王子製紙・日本煉瓦・札幌麦酒(サッポロビール)・渋沢倉庫・東京商工会議所

### 社会福祉・国際協力活動

- 慈恵医大・聖路加病院・東京市養育院(56年間院長)・日本結核予防協会

昭和期にはアメリカとの人形による民間国際交流機関「日本国際児童親善会」を組織し、一千体以上の人形交換を行った。

【論語と経済】終生「道德経済合一説」を唱え、その真髄には「国を富ますには科学の進歩と商工業の活動によらねばならぬ、それには株式会社が必要だ。経営するには強固な道理によらねばならぬ、道理の基準は論語による他はない。」と説いた。

有子曰く、その人と為りや孝弟にして、上を犯すことを好む者は鮮し。上を犯すことを好まずして、乱を作すことを好む者は、未だこれあらざるなり。君子は本を務む。本を立てて道生ず。孝弟なる者は、それ仁をなすの本か。(人を選ぶとき、家族を大切にしている人は間違いない)

【雑記】日露戦争に勝利し、何の経済力も持たず、唯一大きな産業は「米」生産だけであった我が国に商工業を反映させ、時代が要したとはいえ新生日本の礎を築いたその功績はとてつもなく大であり、大いに反省させられた。(もっと早く生まれたかった)

またその生活もあの大正の震災期に飛鳥山の別邸(後に本宅)と、世田谷にも別邸をもち無趣味の中、20人の子宝に恵まれ、最後の子は翁68才時であったと聞いた。きっと複数の？を持ち、その努力を惜しまず、昔今、この道だけは誰かと同じだと思った。

翁のご長男が遊蕩に走った時のお言葉、「お前は国の為は何をした。俺はこれだけ国の為にくした」と言ったという。

ロジ研一同この時は目が輝いていた。古きを訪ねて新しきを思う。翁に 合掌

## ◇お知らせ 《お願い》

- ドライブレジャーアンケートを至急お送りください。
- 12/ 3(水) 17:00～の臨時総会ご欠席の方は必ず委任状をお願いします。